まほらいな市民大学の様子

令和６年５月２３日（木）

『寺社めぐり　長谷　熱田神社　中尾座　』

講師　前長谷公民館長　池上　眞澄　氏
中尾歌舞伎保存会代表　中村　徳彦　氏

今回の講座は、一日かけて長谷地区にある「国の重要文化財　熱田神社」と「中尾歌舞伎　中尾座」の見学をしました。長谷公民館・長谷教育振興係の皆さんにご協力いただきました。

「熱田神社」は前長谷公民館長　池上眞澄 氏からくわしく説明がありました。初めて覆い屋の中に入った学生も多く、芸術性の高い彫刻や建築物に驚きの声が上がりました。本殿建築の大工棟梁は溝口の池上(高見)善八であり、彫物師は名匠関口文治郎で、二人の技が見事に調和して「伊那日光」と呼ばれる素晴らしい文化財が今に伝えられています。

「中尾座」は中尾歌舞伎保存会代表　中村徳彦　氏から中尾歌舞伎の説明と中尾座内の案内をしていただきました。中尾歌舞伎の歴史では、明和４(1767)年、上中尾の山の神様で歌舞伎を演じたのが始まりで、慶応元(1865)年作製の「六歌仙の引き幕」が現存していること。江戸、明治、大正、昭和初期まで盛んに上演していたが、太平洋戦争で消滅。復活を期して、戦後 41 年目の昭和 61(1961)年に青年会で上演。その後幾多の困難を乗り越えて現在まで続いている話がありました。その後館内を巡り、引き幕や廻り舞台、とても高価なカツラなどを見学しました。

昼食を長谷公民館でとり、館内にある戸台化石資料館や近くの中央構造線溝口露頭も見学しました。

学生からは、「熱田神社の普段入れないところで素晴らしい彫刻を見たり、宝珠に触れたりすることできて、貴重な見学となった。」「お弁当持参でハイキング気分で参加させてもらいました。中尾座の廻り舞台の奈落の底や弁慶のカツラを見ることができとても面白かった。」「中尾歌舞伎を存続してご苦労されている皆様方の大変を知ることができました。最後の中村徳彦さんの口上には感動しました。」「長谷にこのような貴重なものがあることを初めて知り、非持山位牌堂や宇津木薬師堂なども訪れてみたいと思った。」といった感想がありました。